

千住宿ノスタルジー

宿場・市場・河岸場

人口が1万人を越えたのはナゼでしょう。それは流通の拠点だったからです。水上交通の幹線隅田川と日光道中が交わり、そこに千住橋戸河岸ができ、宿場と河岸場の間に市場(やっちゃんば)ができたのです。宿場、河岸場、市場の三つの機能が、千住の繁栄を支えています。

商いの都

諸問屋繁栄の歴史から

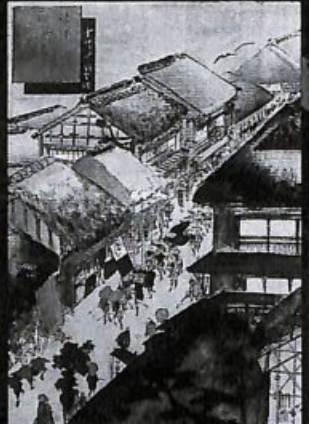
千住は江戸四宿最大の商都でした。流通の幹線だった隅田川と日光道中が交差した千住橋戸町には河岸ができ、北の宿場との間にはヤッチャバと親しまれた市場が出来ました。



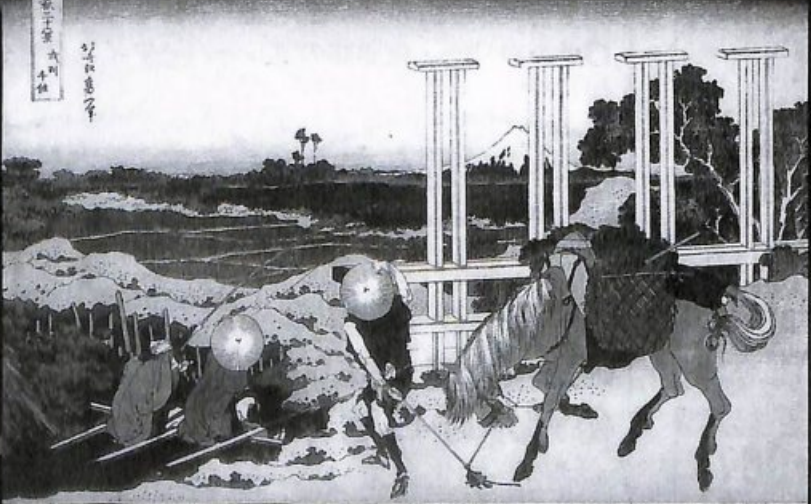
日光道中千住宿

千住は昔宿場町でした。江戸時代の人口は約1万人。江戸には千住の他に品川、板橋、内藤新宿の四つの宿場(四宿)がありましたが、最大の人口を誇っていました。おもな街道は二つ。徳川家の参道という異名を持つ日光道中と水戸へ向かう水戸佐倉道です。北関東や東北、常陸の諸大名が、参勤交代で行き来しました。

- ▲千住宿問屋場・買目改所 千住一丁目の南端に宿場の中心、問屋
- ▶千住宿模型 模型で復元された宿場時代の千住。瓦葺き、板葺き、茅葺きの家が混在している
- ▼千住橋戸河岸 水運は千住に多様な物資を運び、流通を支えた



「諸侯参勤交代」60家を超える諸大名が参勤交代で千住宿を旅立った伊藤晴雨「千住十題」より



富岳三十八景「武州千住」千住宿を荷負った馬をヤッチャバに通つ農夫がひく

城、史跡OB会「千住を歩く」ご案内資料

<日時> 平成17年5月30日(月曜日=予備日31日)
 <八幡宿からの乗車券> 950円区間(北千住)
 <往路> 八幡宿8時09分、蘇我16分着(前の方集合)、26分(京葉各駅)
 南船橋54分着、9時02分、新松戸26分着、32分、北千住53分着
 <復路> 往路を逆走、18時ころ八幡宿着
 <主要見学コース> 北千住駅、名倉医院、千住宿本陣跡、宿場通り、千住大橋、円通寺、
 三の輪駅、浄閑寺、小塚原、延命院、回向院、南千住駅=5kmおよそ1万歩

- 3) 回向院
- ① 両国回向院別院=浄土宗。寛文7年、小塚原刑場での処刑者を埋葬していた両国回向院が手狭となったので刑場隣接地を拝領、別院を創建。
 - ② 本堂=昭和49年建造。モダンな鉄筋コンクリート造り。正面に將軍家三葉葵紋
 - ③ 観臓記念碑=明和8年、蘭法医の前野良沢、杉田玄白、中川淳庵の3人が日本ではじめての解剖。オランダの解剖医学書の翻訳版「解体新書」の発行を決意することになる。わが国西洋医学の幕開けとして大正11年作成、戦災破損再建。銅板に「解体新書」表紙を刻む。
 - ④ 橋本左内の墓=幕末の福井藩士、藩医、藩校学監。13代將軍家定の継嗣問題では藩主松平慶永を補佐して徳川慶喜擁立と幕政改革をめざすが、安政6年大獄で捕らえられ伝馬牢で打首。26才。遺骸は同志によって移葬された。福井の菩提寺にも墓がある。
 - ⑤ 吉田松陰の墓=幕末の長州藩士。佐久間象山に師事し西洋事情に詳しく時事を論じた。安政元年再来したペリー軍艦での海外密航に失敗、保釈後、萩の松下村塾で多くの志士、政治家を育てた。次第に幕政批判を強め、過激な言動を咎められて再投獄、幕府首脳への暗殺計画を告白して安政6年に処刑された。世田谷の若林に墓と松陰神社、萩に松陰神社がある。「松陰二十一回猛士之墓」
 - ⑥ 幕末維新志士たちの墓=頼三樹三郎、雲居竜雄。桜田門外の変の水戸藩士など
 - ⑦ 鼠小僧次郎吉の墓=江戸中後期大名屋敷専門の盗賊。被害額は77大名2万2千両、義賊は眉ツバ。浄瑠璃モデル直待片岡直次郎、明治の毒婦高橋お伝の墓
 - ⑧ 吉展地蔵尊=昭和38年におきた戦後初の営利誘拐事件で犠牲になった村越吉展ちゅんの霊を供養。



↑小塚原刑場跡 ↓吉田松陰と志士の墓



↓橋本左内の墓 ↑観臓記念碑



- 6) 円通寺
- ① 伝坂上田村麻呂創建、源 義家再興。曹洞宗、補陀山。江戸時代は百体の観音像を安置した百観音で知られたが百観音は安政大地震で焼失。下谷3寺の1つ。
 - ② 黒門=元上野寛永寺正門。右が御成門で將軍御成り以外は閉じた。慶応4年の上野戦争の最激戦地。弾痕が生々しく残る。明治40年移築。
 - ③ 彰義隊士之墓=5月15日の戦いで彰義隊は壊滅したが上野山には隊士226名の遺体が官軍をはばかりて放置されたままになった。見兼ねた円通寺住職が新政府の許可を受けて火葬し、寺内に葬った。
 - ④ 死節之墓=鳥羽伏見の戦いから会津、函館など、戊辰の戦いで亡くなった旧幕府軍戦死者供養塔。新選組近藤 勇、土方歳三らおよそ80人の名が刻まれている。
 - ⑤ 彰義隊副長天野八郎、最後の歩兵奉行大鳥圭介、新門辰五郎などの顕彰碑があるが立ち入れない。
 - ⑥ 古塚之碑=源 義家が奥州征伐の首48を埋めた塚。小塚原の起こりとも
- 7) 真正寺
- ① 曹洞宗。2代將軍秀忠の母西郷の局ゆかりの寺。將軍家縁者の寺として繁栄、困窮者の葬儀を無料で行なったので「お助け寺」とも呼ばれた。門前町ができる賑わいをみせた。
- 8) 宗屋敷跡
- ① 明暦以降、南千住1丁目一帯は大名下屋敷街に。都電三の輪橋周辺に亀山石川6万石、対馬宗藩、黒羽大関藩、新谷加藤1万石、因幡新田池田1万5千石などが邸地を構えた。
 - ② 対馬府中藩10万石格、宗対馬守下屋敷7,468坪
- 9) 三の輪橋(音無川)



↑寛永寺馬内 ↓彰義隊の墓



↑モダンな円通寺



←宗屋敷跡



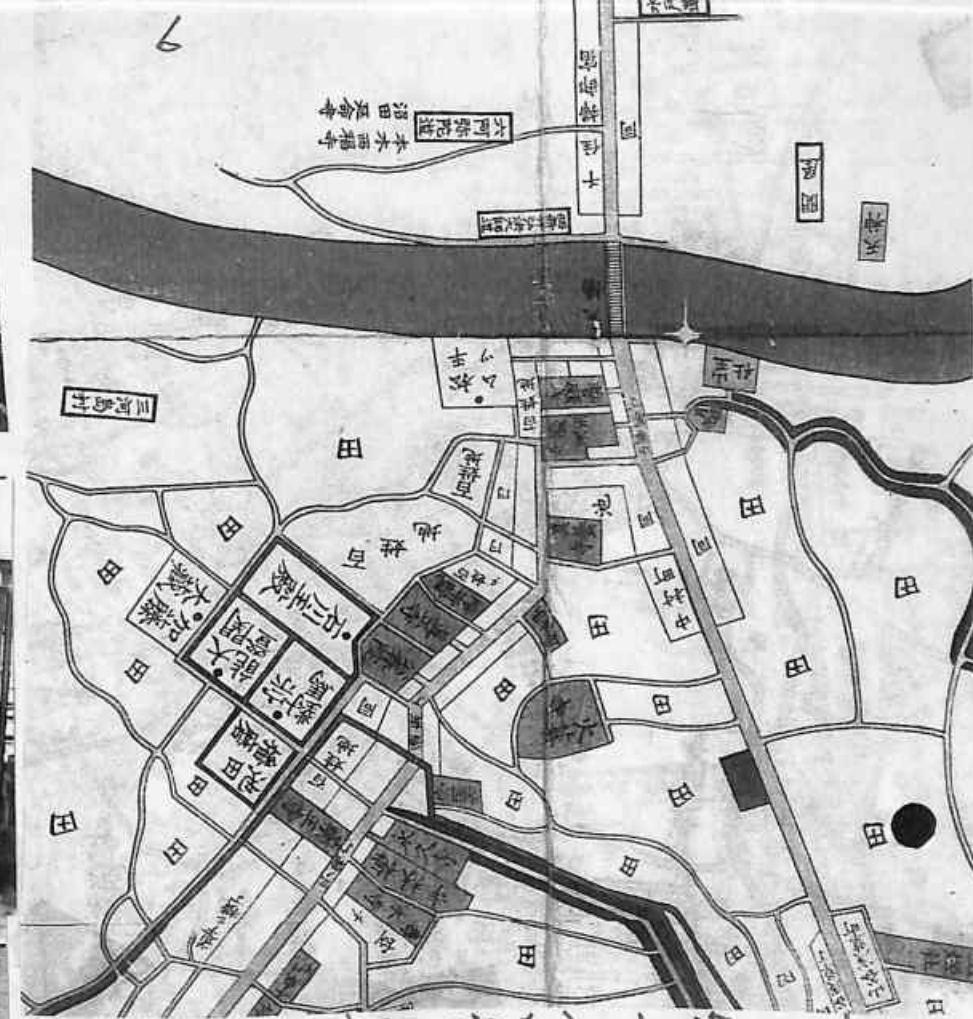
↑首切地蔵とお題目塔

↓延命院の刑場説明板

小塚原刑場跡
此の地附近は徳川幕府初期より重罪者刑場とされ、昔は「小塚原刑場」と呼ばれていた。明治28年、延命院が創設され、ここが刑場として使われた。延命院は浄土宗の寺院で、昭和57年、延命院から独立して小塚原刑場跡として指定された。延命院の歴史は、寛保元年(1741)に建立された首切地蔵菩薩座像に始まる。この地蔵菩薩は、首切地蔵菩薩の坐像で、寛保元年に建立された。元禄11年(1664)に建立された題目塔は、南無妙法蓮華經ひげ文字の題目塔である。延命院の歴史は、寛保元年(1741)に建立された首切地蔵菩薩座像に始まる。この地蔵菩薩は、首切地蔵菩薩の坐像で、寛保元年に建立された。元禄11年(1664)に建立された題目塔は、南無妙法蓮華經ひげ文字の題目塔である。延命院の歴史は、寛保元年(1741)に建立された首切地蔵菩薩座像に始まる。この地蔵菩薩は、首切地蔵菩薩の坐像で、寛保元年に建立された。元禄11年(1664)に建立された題目塔は、南無妙法蓮華經ひげ文字の題目塔である。



↑延命院



↑安政江戸図(部分) ↓隅田川

- 4) 延命院
- ①もと小塚原刑場の一部。浄土宗。昭和57年回向院から独立。
 - ②首切地蔵=石造地蔵菩薩座像。寛保元年建立。寄石造り石垣上高さ3.6m。
 - ③御題目塔=南無妙法蓮華經ひげ文字。元禄11年建造、慶応3年再建。ともに、明治28年JR貨物線の南側から移築。小塚原刑場の遺跡。
- 5) 日光街道千住宿
- ①日光街道第1宿。荒川(隅田川)にかかる千住大橋を挟んで南北に細長く伸びる。主な宿場機能は橋向こうの北千住に置かれた。
 - ②日光街道兼奥州街道=日光街道は宇都宮までの17宿で道分かれして日光へ。以降、仙台、盛岡方面へ奥州街道が続く。將軍の日光社参御成り道、諸大名参勤街道として知られる。
 - ③南千住の日光街道は社寺が続くが、当初の旧道はコツ通りとも。



↑大岡様丁 ↓石浜神社



鼠小僧次郎吉

江戸時代、最も有名であった盗賊。一般の町家には押入らず、大名屋敷専門に盗み、しかもその盗んだ金を貧困者に与えたという説もあって江戸ッ子の人気を集め、義賊とまでいわれた。しかし、貧民に分かち与えたというのは眉唾物で、盗んだ金のごく一部にしかすぎなかったであろうと思われる。

文政八年(一八二五)二月、鼠小僧は大名屋敷に押し入って捕まったが、この時は有名な盗賊であることが判明せず、博打の罪で入墨・追放の刑を受けただけですんだが、その後入墨を消して江戸に舞戻り、再び盗み始めた。平保三年(一八三三)五月、浜町の松平宮内少輔の屋敷で捕まり、町方に渡されて初めて有名な鼠小僧とわかり、江戸中をわかせた。

どのくらい盗んだかには諸説あり「天言筆記」では七七大名屋敷で二万二〇〇〇両といひ、「甲子夜話」では、文政八年に捕まるまでに二八屋敷七五二両、その後七一屋敷二三三〇両、そのほか忘れたところもあると誌している。いずれにしても当時としては大変な金額である。平保三年八月一日市中引回しの上、小塚原で処刑された。年三七歳。

- 10) 浄閑寺
- ①浄土宗。栄法山清光院。新吉原の遊女が数多く葬られたので「三の輪の投げ込み寺」とも。
 - ②新吉原総霊塔=生まれては苦界、死しては浄閑寺。投げ込まれた遊女2万5千人、とくに安政大地震では焼死5百人を埋葬した。
 - ③若紫の墓=大店角海老楼の遊女。投げ込みでない立派な墓。明治36年客に無理心中を強いられて刺殺された。翌日に年季明けを控えた惨劇だったという。
- 11) 大関横町と黒羽大関藩邸跡
- ①下野黒羽藩1万8千石、大関信濃守下屋敷5,580坪+抱屋敷2,611坪
 - ②交差点に大関横町の名が残る。本当の大関藩邸跡はこの先100m。南千住第3幼稚園、南千住図書館前に大関藩邸跡説明板、第6瑞光小学校横に学者藩主大関増業の業績を記した由来碑がある。

1、小塚原刑場跡（回向院入口で）

(1) コツ通り

—回向院前の道

この道は江戸時代には日光道中の裏街道ともいえる、広々とした水田の間にどこまでも続く一本道であった。正式な名は小塚原縄手道(なづみち)であるがそれをコツ通りとは通称か俗称で、いわれは次の3通り。

- ① 小塚原の「こづかはら」を粋がってコツカッバラ、それを詰めてコツ
- ② 500mほど北に千住宿のはずれの遊里、この道を通して「コツへ行く」は特別な意味をもつ隠語
- ③ 多くの刑死者を葬った場所なのでお骨の「コツ」



(2) 刑場は広場であった —今は道路や鉄道用地に

刑場とは通称か、正式には御仕置場。江戸初期の寛文7年(1667)に回向院とともに設立、明治初年の廃止までに刑死者20万人という。往時は60×30間の広さというが、私が初めて来た昭和18年には、まだその位の広さがあった。最近の道路や鉄道用地の拡張で完全に消滅。当然のことなのか今はその跡を示す表示すらない。

(3) 御仕置とは —刑罰の執行

切腹は武士への刑罰。御仕置場では町人や百姓に対してなので、磔(はりつけ)や火あぶりなどの刑罰。しかし幕末には吉田松陰などの政治犯も。



戦前のヤッチャバ 多くの取引客でにぎわっている



商人用の絵図に描かれた千住 大馬(右端)から「はし戸川原(かもんじゅく)」と読く

掃部宿・かもんじゅく
現在の千住仲町、千住河原町、千住橋戸町、つまり千住の流通の中心地は、江戸時代初期に右川吉胤(いしよ)が拓いた掃部宿(新田)という開墾地で後に掃部宿となりました。吉胤は掃部宿(千住の掃部)を築いたり、千住大橋の架橋に携わった人物で通称を掃部介(かもんすけ)と言いました。宿の名前は吉胤の通称に因んでいます。

ヤッチャバの大混雑
千住二丁目から千住大橋を渡って通勤していた森外は、ヤッチャバに出入りする荷車の渡渉があるため早めに出発していました。朝早くに行われた取引は混雑しました。市場の成立は古く、江戸時代には幕府の御用市場でしたし、青物(野菜)と米穀の問屋の繁盛は江戸内外に知れ渡っていました。



Jujū-jūの顔ぶらんちん



千住大橋近くの熊野神社に「子育て大イチョウ」がある

日光街道「千住宿」



千住大橋は、かつて東北への唯一の大橋だった



三ノ輪駅周辺。そのスケールは遠く昔も人も往来が激しい

幕府直轄の幹線道路、五街道の街道名は当初、東海道、中山道、奥州街道、日光街道、甲州街道と書かれていた。だが、正徳6年(1716)に中山道は東山道の中ほどの道ということになり、中山道とし、東海道以外は海端を通らないので海道を道中に改められた。けれど一般にはまだ海道が使われ、やがて海沿いでない道に街道という字があられた。

奥州道中(街道)は、日本橋から千住、宇都宮を経て奥州に向かう道である。

元和2年(1616)4月に家康が没し、駿州久能山に葬られた。翌年元和3年3月、家康の遺骸は久能山から日光東照宮に移され、日光東照宮参拝が制度化された。すると千住から宇都宮を経て日光までの間の道を日光道中(街道)と呼ぶようになった。つまり千住—宇都宮間は日光道中でもあり、奥州道中でもあった。

さて、五街道の江戸からの出口には千住宿、内藤新宿、品川宿(東海道)、板橋宿(中山道)の4つの宿場が設けられた。旅籠が一番多く、賑わったのは品川宿だが、千住はヤッチャバ(野菜市場)があり、人口や家数が一番多かった。そして日光、奥州道中以外にも水戸佐倉道、岩槻道、下妻道、大師道と、千住は街道のオンパレード。その千住が最近、昔の宿場町を再現して活気づいている。



千住宿は現在賑やかな商店街。高札場や本陣跡などの石碑に歴史を伝える

千住宿の一里塚跡。千住宿には天保14年、55軒の旅籠があった



住大橋のたもとの大橋公園に奥の細道矢立初の碑もある。千住宿は最初、いまの千住1〜5丁目であったが、万治元年(1658)掃部宿(現・千住仲

千住は芭蕉が「奥の細道」に出発したところ。回向院から500m北進した森立神社に芭蕉の旅立ちの句碑がある。交通量の激しい千住大橋のたもとの大橋公園に奥の細道矢立初の碑もある。千住宿は最初、いまの千住1〜5丁目であったが、万治元年(1658)掃部宿(現・千住仲

地下鉄三ノ輪駅下車。近くには安政の大地震の時、遊女たちが投げ込み寺に葬られたという「投げ込み寺」。浄閑寺がある。江戸の川柳に「生れては苦界死しては浄閑寺」と詠まれている。裏の墓地には、暗く悲しい遊女の生涯に思いを寄せた作家永井荷風の詩碑がある。地下鉄南千住駅近くの小塚原刑場跡には延命寺があり、回向院にはかの吉田松陰や橋本左内など刑死者の墓がある。



江戸期から骨つぎといえは千住の名倉、と関東一円に知られた名倉医院。駕籠や大八車が門前にひしめいていたという



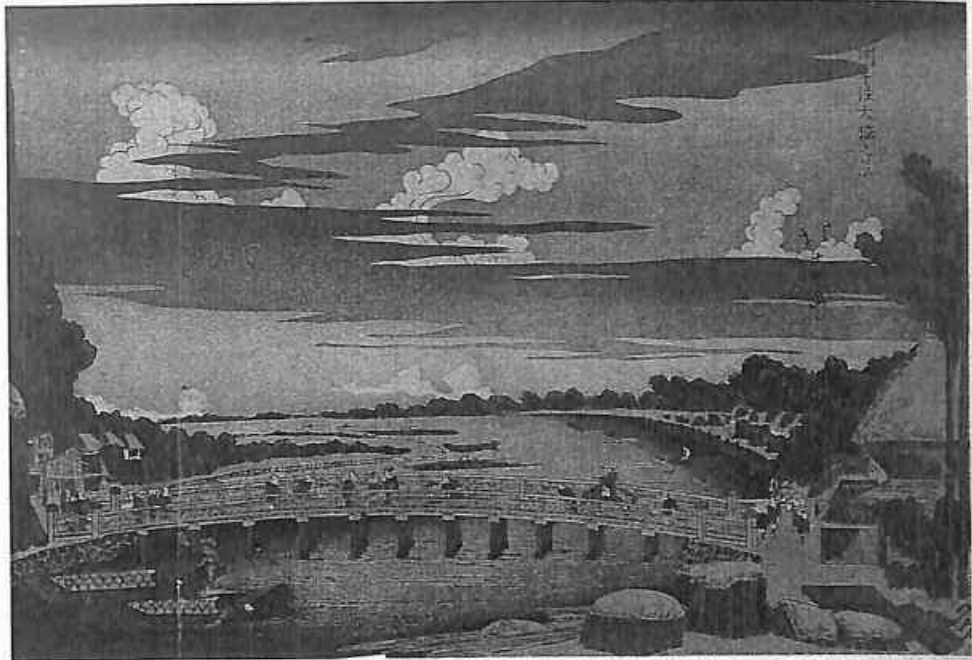
長円寺地藏堂に千住総馬が奉納 改修はされているが江戸後期の商家、横山家 宿場時代の時の鐘も残る勝専寺

町辺り)と河原町、橋戸町が、万治3年には現・南千住の小塚原町、中村町が加わり、10町を総称していた。大きな宿場で、現在も旧道の商店街は延々と続き、商店街に高札場跡、一里塚跡、問屋場跡などの小さな石柱がある。細い路地も縦横にあって、迷い込んでみるとお寺やお宮も多い。



千住宿の人口は往時約1万。その繁栄がしのばれる

通称赤門寺の勝専寺には徳川家の御殿が造営され、秀忠、家光、家綱が利用した。時に將軍家の日光社参は全19回あり、秀忠4、家光10、家綱2、吉宗1、家治1、家慶1の回数であった。千住は蔵も多く、路地裏の蔵巡りも楽しい。宿の外れ近くに絵馬屋の吉田家があり、東側の長円寺地藏堂に「め」と書かれた絵馬がたくさん奉納されている。名物「植かけだんご」の前を行くと、長屋門のある接骨の名医「名倉医院」がある。この先旧道は行き止まり。草加方面には荒川に架かる千住新橋を渡る。



「武州千住大橋之景」神奈川県立歴史博物館所蔵。隅田川で一番早く架橋



千住問屋場貫目改所跡から1分ほどの歩道わきに一里塚が見えてくる。かつて「是より日本橋に二里八丁」と刻まれた道標が立っていたところで、こより現在の日光街道(国道4号)方面に少しくと高札場跡の石碑が歩道に立っている。当時、人目につきやすい盛り場や四つ辻にあった高札場には、控書や禁制などが掲げられていた。再び、旧日光街道を歩く。墨堤通りを横切り、およそ100m進んだ右側には千住青物問屋街跡が残されている。青物(野菜)を扱う歴史は、古くは天正年間(1573〜1591)までさ

新旧の日光街道の今昔を見つめる分岐点

かのぼる。青物場が作られ、江戸時代になり、本格的な青物問屋街が形成された。当時は隅田川の水運を利用して各地から野菜が運ばれ、問屋の店先を活気づかせていたようだ。問屋街跡のすぐ先には展示施設の千住宿歴史プラザ(入館無料、9時〜17時、年末年始休。☎03・3880・5111)まちづくり公社)が建っている。伝馬屋敷だった横山家の土蔵を利用したもので、千住宿で使われていた生活用具や陶磁器のほか、絵画、工芸品などを展示している。